自己評価報告書

（令和４年度　学校評価）

学校法人　山口学園

長崎公務員専門学校

1. 教育理念・目的

本校は、主に国・地方公共団体のあらゆる分野に適応できる一般教養、専門知識及び社会性を身につけた人材を育成し、
もって社会に貢献することを目的とする

2. 教育目標

① 学生一人ひとりの夢実現を目指す
② 高い倫理観と豊かな人間性をもった社会人の育成を目指す

3. 育成人材像

・主に国・地方公共団体のあらゆる分野に適応できる一般教養、専門知識を身につけている人
・高いコミュニケーション能力を有し、地域社会の一員として貢献することができる人
・地域および社会の問題を発見し、自ら考え、実践する力を有している人

4. 運営方針

① 学生の満足度を向上させる
② 教職員の満足度を向上させる
③ 保護者・地域からの信頼度を向上させる

5. 本年度の重点努力目標

①公務員試験一次合格率100%
②社会人としての意識や行動、基本的マナーの育成

6. 評価項目別取組状況

評語について
A 十分達成（達成率90%以上）
B 概ね達成（達成率90%未満～70%以上）
C 取り組まれているが成果が十分でない（達成率70%未満～50%以上）
D 取組が不十分である（達成率50%未満）

大区分	R4評価項目		評価指標	R4自己評価	R4判断理由 （実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
教育理念・目的 育成人材像	1-1	学校の教育理念･目的，教育目標，育成人材像は定められているか。	□教育理念･目的，教育目標，育成人材像は体系化されており，文書などによって明確に定めているか。 □育成人材像は，本学の理念･目的及び，主な官庁の求めるものに沿っているか。	A	･学則，ホームページにおいて明記している。【前年度と同様】 ･国家，長崎県，長崎市が求める人材像は前年から変更がなく，そのいずれにも沿っている。	･学則 ･ホームページ(学校の目的･概要)	（省略） （省略）
	1-2	学校の教育理念･目的，教育目標，育成人材像について，学生･保護者･教職員等の理解を得ているか。	□教育理念･目的，教育目標，育成人材像について，学生･保護者･教職員等の理解を得ているか。	A	･学則，ホームページ，教室掲示板，学生に配付した入学時伝達事項により，周知している。また，家族説明会において説明した（今年度の家族説明会は，新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため，オンラインで実施した）。その結果，各アンケートにおいては「学校の理念･目的，育成人材像について理解していた」という質問に対して，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，教職員で100%，学生が95.1%，保護者が78.7%，全体では91.2%と高く評価されている。	･学則 ･ホームページ(学校の目的･概要) ･入学時伝達事項※一部抜粋 ･学生アンケート ･保護者アンケート ･教職員アンケート	（省略） （省略） 1 1 2 2
学校運営	2-1	運営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	□毎年度始めに具体的な事業計画書を作成しているか。	A	･毎年度始めに具体的な事業計画書を作成している。【前年度と同様】	･今年度事業計画書	3
	2-2	教育活動に関する情報公開がなされているか。	□教育活動に関する情報公開がなされているか。	A	･ホームページの情報公開ページにおいて公開している。【前年度と同様】	･ホームページ（教育情報の公表）	（省略）

大区分	R4評価項目		評価指標	R4自己評価	R4判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
教育活動	3-1	教育理念･目的，教育目標に沿った教育課程を編成･実施しているか。	□教育理念･目的，教育目標に沿った教育課程を編成･実施しているか。 □教育課程は，定期的に見直し，改定を行っているか。	A	･様々な学生を受け入れるため，昼間部および夜間部にそれぞれ複数の学科を設け，学生が希望する進路への合格を支援できる教育課程を編成･実現している。【前年度と同様】 ･採用試験を受験した学生が提出する一次試験報告書により，試験種別，出題科目，出題内容を把握している。今年度については，大卒程度の上級学科について，これまで固定化されていた授業コマ数を試験ごとの出題数や必要最小コマ数をもとに見直しを行った。	･科目一覧(別科含む)	（省略）
	3-2	課程修了認定の基準を明確にしているか。	□課程修了認定の基準は学則等に規定するなど，明確にしているか □課程修了認定の基準について学生の理解を得ているか。	A	･成績評価，単位認定，課程修了認定の基準は学則に規定し，入学時のオリエンテーション時に周知している。【前年度と同様】 ･学則を入学時に学生に配付することに加え，入学時オリエンテーションやホームルーム等でも周知している。その結果，学生アンケートにおいては「課程修了の認定基準を理解していた」という質問に対して，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，95.1%と高く評価している。	･学則 ･学生アンケート	（省略） 1
	3-3	各科目の到達目標，授業計画，成績評価の基準等は明確にしているか。	□各科目の到達目標，授業計画，成績評価の基準等は明確にしているか。 □各科目の到達目標，授業計画，成績評価の基準等について，学生の理解を得ているか。	A	･全科目のシラバスを作成し，到達目標，授業計画，成績評価方法および基準等を明記し，ホームページに公表している。【前年度と同様】 ･シラバスをホームページに公表することに加え，成績評価方法及び基準については，教科担当者も説明を行っている。その結果，学生アンケートにおいては「シラバスは授業の目標や計画および評価方法を適切に示していたか」という質問に対して，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，95.9%と高く評価されている。	･学生アンケート	1

大区分	R4評価項目		評価指標	R4自己評価	R4判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
教育活動	3-4	授業評価の実施・評価体制はあるか。	□授業評価の実施・評価体制は整備されているか。	A	・昨年から引き続き，Google Formを用いて，学生が携帯端末から簡単に回答でき，容易に集計可能な形で実施している。		
			□授業評価の内容は，授業改善を計るためのものになっているか。		・前年度までは，全科目について学生に評価をいただいていたが，質問数が多く，中には適当に回答しているものも散見した。そのため，本年度については満足度が高かった上位3科目と下位3科目について，評価理由を回答いただくことで，今後の授業改善に繋がるようにした。その結果，教職員アンケートにおいては「Q2.今年度の授業評価アンケートは，授業改善を図るためのものになっていたと思うか(教員のみ回答)」において，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，88.9%と高く評価されている。	・授業評価アンケート	6
			□教員は授業評価の結果を踏まえて，授業改善を行っているか。		・授業評価アンケートの結果は，全体に共有を行った。教職員アンケートにおいては，「Q3.前年度の授業評価アンケートの結果を踏まえて，授業を行うことができたか(教員のみ※今年度入職者を除く)」において，「強くそう思う」「そう思う」が100%であった。	・教職員アンケート	2
	3-5	教職員の資質向上のための取組が行われているか	□教職員に対し「目指すべき職員像」により，求められる資質が示されているか。	C	・「目指すべき職員像」により，具体的な資質を示すことができている。【前年度と同様】	・目指すべき職員像	（省略）
			□教職員に対し，資質向上のための機会を提供出来ているか。		・学外セミナーについての紹介はあったものの，それに参加するための体制づくりが出来ておらず，参加件数も昨年度から減少した(令和3年度11件→令和4年度7件)。これには，研修に参加する際の手続き自体も浸透していない(アンケート自由記述欄より)ことも要因としてあるように感じる。教職員アンケートにおいても「Q4.教職員に対し，教職員の資質向上のための機会が提供されていたと思うか」において，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，33.3%に留まり低い評価となっている。	・研修参加実績一覧	12
			□教職員は自らの資質向上のために取り組むことが出来ているか。		・教職員アンケートにおいては，「Q5.自らの資質向上を目指して行動することができたか」において，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，66.7%であり，半数以上は高く評価している。	・教職員アンケート	2

大区分	R4評価項目		評価指標	R4自己評価	R4判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
教育活動	3-6	業務の効率化が図られているか。	□組織として業務の効率化が図られているか。	B	・教職員アンケートにおいては，「Q6.組織として業務の効率化が図られていたと思うか」において，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が66.7%であり，半数以上は高く評価しているもののあまり高いとはいえない。教職員の入替も多くあった中で，マニュアル化されていない部分，引継ぎが漏れている部分もあり，引き続きマニュアルの整備が必要になっている。	・教職員アンケート	2
			□各教職員が自身の業務について効率化を図っているか。		・教職員アンケートにおいては，「Q7.個人として業務の効率化が図ることができたか」において，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，66.7%であり，半数以上は高く評価しているもののあまり高いとはいえない。しかしながら，これまで個別に撮影していた合格者の顔写真を一箇所に集めて実施するなどの業務の効率化を含めた企画提案は昨年度と同じく6件あり，さらに企画提案書を用いない提案も，職員会議や日常業務の中で随時行われ，毎年少しずつではあるが効率化が進んでいると言える。	・企画提案実績一覧	13
学修成果	4-1	昼間部において目標とする1次合格率（一次合格者数／受験者数）が達成できたか。	□昼間部1次合格率100%は達成できたか。	B	・昼間部全体の1次合格率は96.6%であり，昨年より6.6%上昇した。1次合格率100%を達成したクラスもあった。	・クラス別合格実績	13
	4-2	昼間部において目標とする突破率（最終合格者数/1次合格者数）が達成できたか。	□昼間部突破率90%は達成できたか。	B	・昼間部の突破率は，昨年より8.6%上昇し，目標値（90%）の77.2%の達成となった。本校面接対策冊子「面接の心構え」の効果的な活用法や，面接指導の方法（時期や内容など）の改善を積み重ねてきたことや，メンター制度が定着したことなどにより，昨年よりは向上した。しかし，まだ目標値には達しておらず，今後は実施から2年経過したメンター制度の内容や効果を検証したり，新しい取り組みを検討したりしながら，一層の改善に取り組む。	・クラス別合格実績	13

大区分	R4評価項目		評価指標	R4自己評価	R4判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
学修成果	4-3	長欠及び成績不振による退学率の低減が図られているか。	□長欠及び成績不振による昼間部退学率3%以内は達成できたか。	B	・令和4年度昼間部入学者数※150名中，長欠及び成績不振による退学者は7名であり，退学率は4.7%であった。よって，目標値の3%以内は達成できなかった。 ※令和3年11月及び令和4年の入学生・編入学生	・退学者一覧	14
			□長欠及び成績不振による退学者数，並びにその要因，傾向，指導の経過を把握し，退学率の低減が図られているか。		・長欠及び成績不振の要因，傾向については指導経過記録で，退学者数については学生管理システムにより把握している。【昨年度と同様】		
学生支援	5-1	公務員採用試験に関する支援体制は整備されているか。	□受験に関する支援体制を整備し運用しているか 。	A	・学生が携帯端末などを用いてインターネット上で試験日程や願書案内状況，申込締切日などを随時確認できるようにしており，SPI試験に対する対策も準備するなど，受験支援体制を整備し運用している。学生アンケートにおいては「採用試験に関する説明は分かりやすく，指導も充実していた」という質問に対して，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，96.7%と高く評価されている。	・学生アンケート ・官公庁ガイダンス実施手順	1 16
			□関連する主官庁と連携体制を整備し，ガイダンス等により公務員または志望官庁への志望意欲の醸成，職業理解に繋げることが出来たか。		・学生からの要望も多い長崎市ガイダンスを行うなど，官公庁と連携体制を整備し，ガイダンスを実施している。今年度は19官庁実施し，のべ514名が参加した。	・官公庁ガイダンス開催一覧	17
			□卒業生を活用し，公務員または志望官庁への志望意欲の醸成，職業理解に繋げることが出来たか。		・合格者の体験談をまとめ，学生広報用の資料などに卒業生からのメッセージとして掲載し，公務員への志望意欲の醸成を図っている。また，官庁ガイダンスにおいて，本校卒業生が講師として参加いただく機会が多く，学生の志望官庁への志望意欲の高まりが期待できる。	・合格者の声※一部抜粋	15
	5-2	学生相談に関する体制は整備されているか。	□学生に対して，相談しやすい環境を作っているか。	A	・悩みや困りごとは担任が聞き取り、直接は言いにくい事などにも対応するため、意見箱を設置しており、学生アンケートにおいては「学校へ相談しやすい環境が作られており、適切な対応が行われた」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が、95.1%と高く評価されている。なお、相談数は令和2年以降，30件近くを推移しており，各教職員が個別相談に対しても，適切に対応を行っている。	・学生アンケート	1
			□相談記録を保存・情報共有しているか。		・「相談・指導経過記録」を作成，共有フォルダに保存・情報共有している。【前年度と同様】	・相談記録一覧	14

大区分	R4評価項目		評価指標	R4 自己 評価	R4判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
学生支援	5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	□学校独自の経済的支援制度を整備しているか 。 □学外の経済的支援制度を学生に情報提供する体制が整っているか。 □学外における経済的支援制度の利用について実績を把握しているか。	A	・授業料分割納付制度を整備している。 申込28件　許可28件（許可率100%） ・日本学生支援機構の奨学金の募集は毎年実施しており，1年未満のコースの学生には国の教育ローンの紹介を行っている。令和2年度から開始された高等教育の修学支援新制度についても案内した。いずれにおいても，利用の相談に適切に対応し，情報を提供している。【前年度と同様】 ・日本学生支援機構の奨学金利用について実績を把握している。【前年度と同様】	・授業料分割納入実績一覧 ・日本学生支援機構 奨学金利用者数	18 18
	5-4	障がい等を理由とする配慮希望者に対する支援体制は整備されているか。	□配慮希望者に対する支援体制は整備されているか。 □配慮希望者に対する支援は，十分合理的なものになっているか。	A	・配慮希望者への対応をマニュアル化し，活用している。【前年度と同様】 ・配慮希望内容を文書と聞き取りにおいて把握し，教室の座席の配慮や自習室の利用など，対応している。※申請4件　同意4件	・配慮希望者への対応手順 ・配慮希望実績一覧	（省略） 19
	5-5	保護者と適切に連携しているか。	□報告書等で，学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか。 □個人面談等の機会を，教養重点科の保護者に提供しているか。 □学力不足，心理面等の問題解決にあたって，保護者と適切に連携しているか。	A	・学生の出欠状況，模擬試験成績，担任からのコメントを原則月1回保護者へ送付している。また，受験支援体制についての説明を，家族説明会（教養重点科のみ，YouTube にて配信）で実施。さらに，SNS（インスタグラム等）を活用して情報発信している。【前年度と同様】 ・三者面談を実施しているほか，保護者あて報告書や家族説明会において，気軽に相談してくださるよう呼びかけている。 ・欠席が続く，遅刻早退が多い，成績不振などの学生については担任が保護者へ連絡し，状況把握，改善に努めている。保護者から相談がある場合には，面談等，個別対応をしている。保護者アンケートにおいては「学生指導に関する対応・処置は適切であり、納得していた」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合は84.4%と高く評価されている。	・保護者アンケート	2

大区分	R4評価項目		評価指標	R4自己評価	R4判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
学生支援	5-6	卒業生への支援体制はあるか。	□卒業生についても公務員採用試験に関する支援体制を整備し，最終合格へと導くことできているか。	A	・卒業後も公務員採用試験を受験する学生に対して模擬試験の案内を送付している。また，携帯端末などを用いてインターネット上で試験日程や願書案内状況，申込締切日などを随時確認できるようにしている。学生の状況や学歴などを考慮して担任が個別に連絡を取ることも行っている。なお、一次試験合格者に対しては面接指導も行っており、4名を最終合格へと導くことができた。	・上級模試・SPI模試日程(HP掲載) ・初級模試日程(HP掲載) ・過年度卒業生受験結果	19 22 24
			□就職後の悩み，相談に適切に対応しているか		・就職先での悩み，不安などの個別相談に対応している。【前年度と同様】	・相談記録一覧	14
教育環境	6-1	施設・設備は，学校の教育理念・目的，教育目標を達成するのに相応しいものとなっているか。	□自習室など，学生の学習支援のための施設を整備しているか。	A	・土日，放課後に利用できる自習室を整備しており，学生アンケートにおいては「自習室の開放など，自習するための環境が整っていた」という質問に対して，「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が，100%と高く評価されている。	・学生アンケート	1
			□施設・設備等の定期点検，補修等について適切に対応しているか。		・施設・設備等の定期点検を，教職員が年1回実施している。今年度は，本館屋上の防水工事，2号館の2Fベランダの防水工事と非常階段の修繕を行った。	・施設設備等の安全点検チェックリスト集計表	24
	6-2	防災に対する体制は整備されているか。	□法令に基づき，消防設備等の整備及び保守点検を行い，改善が必要な場合は適切に対応しているか。	A	・法令に基づき消防設備点検を実施し，不具合箇所は適切に改善している。【前年度と同様】	・消防用設備等点検結果報告書	25
			□災害発生時における対応マニュアルを整備しているか。		・火災発生時と地震発生時の防災マニュアルを整備している。【前年度と同様】	・防災マニュアル	（省略）
			□防災訓練を定期的に実施しているか。		・火災時と地震時の避難を想定し，3月に自主訓練を実施している。	・避難訓練実施要領	26

大区分	R4評価項目		評価指標	R4自己評価	R4判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
学生募集	7-1	高等学校等接続する機関に対して，公務員の制度や本学の取組等に関する情報提供が行われているか。	□高等学校及び大学における説明会に参加し学生に対して公務員の制度や本学の教育内容，教育成果等の情報提供を行っているか。	A	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり，予定されているガイダンス（説明会）が見送られることもあった。それでも可能な範囲で参加したり，Web方式での説明を行うこと等により，学生に情報提供を行うことが出来た。	・学校訪問一覧※高校	30
			□高等学校及び大学の教職員に対して公務員の制度や本学の教育内容や教育成果等の情報提供を行っているか。		（参考）ガイダンス（説明会） ・高校　参加回数 23回／参加人数 275人 ・大学　参加回数　6回／参加人数 225人	・高校進路ガイダンス参加一覧	31
					・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり，訪問について了承を得た学校に対しては学校訪問を行い，その他の学校に対しては資料を送付し，本校の教育内容や教育成果等の情報を提供することが出来た。今後の学校訪問についても，新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を見ながら検討していく。 （参考）学校訪問 ・高校　訪問校数　9校 ・大学　訪問校数　4校	・大学訪問・進路ガイダンス一覧	31
	7-2	学生募集活動において，公務員の制度や本学の教育内容（設置学科，課程修了要件，校納金等），教育成果（一次合格率，突破率等）等の情報は正確に伝えられ，本学入学に繋げられているか。	□各学科の入学者は定員の80%を達成できたか。	B	・認可学科において定員の90%を達成できた学科がある一方で，定員の80%を下回った学科もあり，平均としては定員の76.7%の充足率であった。 引き続き高等学校及び大学等に対し，本学の教育内容，教育成果等の情報の積極的な提供に努め，目標の達成に向け取り組んでいく。	・認可学科における入学定員と充足率	32
			□学校説明会等において，公務員の制度や本学の教育内容，教育成果等について正確に，分かりやすく紹介しているか。		・募集要項にて教育内容を説明会資料にて一次合格率や突破率などの教育成果を正確に，分かりやすく紹介している。 また，学校説明会をよりよいものにするため，学校説明会の参加者に対しアンケートを実施している。学校説明会アンケート結果によると，参加者の学校説明会（全体）に対する満足度は「満足」「やや満足」と回答した割合が96.6%と高く評価されている。	・学校説明会参加者アンケート	32
			□学校説明会等において使用する資料は，正確にわかりやすく作られているか。		・学校説明会等において使用する資料は，適宜更新され，より正確で分かりやすいものになっている。【前年度と同様】	・学校説明会資料	（省略）
	7-3	校納金は妥当なものとなっているか。	□校納金は妥当なものとなっているか。	A	・令和4年5月に開催した理事会における審議の結果，校納金の金額について，その妥当性につき了承を得ている。また，徴収する金額については全て募集要項にて明示している。【前年度と同様】	・今年度第1回理事会議事録	33

大区分	R4評価項目		評価指標	R4自己評価	R4判断理由 （実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
財務	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	□収入と支出はバランスがとれているか（事業活動収支計算書（公務員）における「経常収支差額」が収入超過であるか）。 □負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか（貸借対照表（公務員）における「負債の部合計」が，「現金預金額」に収まっているか）。	A	・収入超過ではあるが，前年度と比較し大きく減少している（大幅減の要因は「学生生徒等納付金」の減少（約1,700万円減））。 （経常収支差額：（R2年度）24,590,938円→（R3年度）181,662円） ・収まっており，妥当な数値である。 （現金預金：376,190,542円 負債の部合計：103,715,327円）	・前年度事業活動収支計算書 ・前年度貸借対照表	33 35
	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	□予算と決算に大きな乖離を生じていないか（事業活動収支計算書（公務員）における「基本金組入前当年度収支差額」の予算と決算の乖離が20%以内であるか）。 □予算超過が見込まれる場合，適切に補正措置を行っているか 。	C	・予算：△5,477,322円　決算：181,662円 →差異：5,658,984円（乖離：103%） 予算編成時の見込み以上に学生及び寮生が増えたことによるもの。 ・行っている（5月に実施）。	・前年度事業活動収支計算書	33
	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか。	□私立学校法及び寄附行為に基づき，適切に監査を実施し，改善意見について記録して適切に対応しているか。 □監査報告書を作成し理事会等で報告しているか。	A	・行っている（5/13監査実施） ・報告している（5/24理事会にて報告）	・前年度監査報告書 ・今年度第1回理事会議事録	36 33
	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか。	□財務情報についてホームページに掲載するなど公開に取組んでいるか。	A	・公開している。【前年度と同様】	・ホームページ（法人情報）	（省略）
法令等の遵守	9-1	関係法令，専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	□関係法令，専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	A	・学校教育法や専修学校設置基準に定められている規則を遵守し，所轄庁へ必要な書類の提出を行っている。【前年度と同様】	・専修学校設置基準 ・学則 ・就業規則	（省略） （省略） （省略）
	9-2	人事や給与，就業規則等の学内の規程・規則については明確化し，必要に応じて更新するなど，適切に運用しているか。	□人事や給与，就業規則等の学内の規程・規則については明確化し，教職員が見えるように公表しているか。 □人事や給与，就業規則等の学内の規程・規則については，必要に応じて更新するなど，適切に運用しているか。	A	・就業規則に定め，全職員に公表した上で職員室に備え付け，適切に運用している。【前年度と同様】 ・人事考課規程に定め，全職員に公表した上で職員室に備え付け，適切に運用している。【前年度と同様】	・就業規則 ・人事考課規程	（省略） （省略）

大区分	R4評価項目		評価指標	R4 自己 評価	R4判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ
社会貢献 ・ 地域貢献	10-1	学校の教育資源を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか。	□学校の教育資源を地域･関連業界等に開放しているか。	A	･学校の資源を開放する制度は整っていたが，長崎県からの受託事業を除いては，新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で実績はなかった。【前年度と同様】	･受託事業実施資料	36
	10-2	学生のボランティア活動を奨励，支援しているか。	□ボランティア活動など社会活動について，学校として積極的に支援･奨励しているか。 □ボランティアの参加人数を学内で把握しているか。	A	･新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため，官公庁をはじめとする外部ボランティアは紹介だけに留めた。しかし感染の可能性が低い学校周辺の清掃ボランティアを毎週計画し，4月から7月まで実施した。また1月には広範囲にわたる市街地清掃ボランティアを計画しており，2月以降の継続を予定している。 ･ボランティア活動状況一覧を作成し，参加人数を把握した。	･ボランティア活動状況一覧	37
	10-3	高校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか。	□高校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか。	A	･進路ガイダンスを20回実施した。過去3年間の平均実施回数が16.3回であることから，過去3年間と同等以上の評価に値する。	･高校進路ガイダンス参加一覧	31

7. 本年度の総合的な評価結果

令和4年度 自己評価	令和3年度 自己評価	理由
B	B	・33項目中26項目が”A：十分達成”で全体の78.8%を占めており，前年度の83.3%からは5ポイント近く低下した。 ・また，本校が学生や保護者，地域から求められている『4.学修成果』の全3項目が”B：概ね達成”だったことから，総合的な自己評価としては，”B：概ね達成”とすることとした。しかしながら，本年は前年度よりも1次合格率，最終突破率ともに改善しているため次年度もこれを継続していきたい。

8. 今後取り組むべき課題（改善策）

（1）学生に関すること

課題	具体的な取り組み方法
（評価項目4-1より） 「目標」 昼間部1次合格率100% 参考：令和4年度達成率：96.6% （2023年1月12日現在）	**今年度においては，前年度から改善されているため，今年度に行った以下の取組を次年度も継続して実施していく。** ・今年度の1次合格に関する分析結果をもとに，カリキュラムや各科目における指導方法，進路相談の際の根拠資料などの見直しを検討する。なお，分析にあたっては，入学試験や校内模擬試験等の成績と受験結果の相関関係，1次合格者と不合格者の傾向，科目別正答率などの情報をもとに行う。 ・SPI試験対策については，出題傾向や試験結果の分析を充実させ，対策授業や模擬試験の実施など，効果的な対策を検討する。また，高卒程度の採用試験でも一部の官庁でSPI試験が導入されたことを受け，教養重点科でも対策授業や指導等の充実を検討する。 ・現状，入学試験の筆記試験において点数が低かった入学予定者を中心に，入学前に春期講座を開講し，学力の程度に応じて「総合クラス」「数学クラス」に分けて指導を行うことで，基礎学力の向上を図っている。その中で，近年は特に数学の学力の差が大きい傾向があることから，「数学クラス」をさらに学力別に分け，各学生の理解度に沿った手厚い指導を行うなど，低学力層の底上げに繋がる取り組みを検討する。 ・昨年に引き続き，担任を中心とした模擬試験下位者への重点的な声掛けやアドバイス，指導，相談等の体制づくりを検討する。また，学生の成績をより詳しく，視覚的に把握するため，模擬試験の結果や，各科目で行われる小テストの結果を利用した仕組みづくりも検討する。

(評価項目4-2より) 「目標」 昼間部突破率※90.0% ※突破率＝最終合格者数/1次合格者数 参考：令和4年度達成率：77.2% (2023年1月12日現在)	**今年度においては，前年度から改善されているため，今年度に行った以下の取組を次年度も継続して実施していく。** ・入学時に面接担当者を割り振り，学生が相談しやすい体制づくりを継続する。 ・学生に二次試験対策の重要性を説き，一次試験の受験対策と並行して，職業研究や自己分析を面接対策冊子を用いながら行う。 ・メンター制度について，各教員が行った取り組みとその結果を共有し，制度のさらなる充実を検討する。 ・Web面接や録画面接などのように面接試験自体が多様化していることもあり，学生が面接試験をよりイメージしやすく，対応しやすいように，動画の活用や教材の見直しを含めた指導方法を引き続き検討する。 (2023年度からの新たな取り組みとして) ・面接試験の緊張感を感じるために，卒業生を面接官とした模擬面接を実施する。 ・各採用試験の1次試験合格者を3名程度のグループに分け，学生同士での模擬面接を推奨する。

(2)教職員に関すること

課題	具体的な取り組み方法
(評価項目3-6より) 「業務の効率化」	・これまで前年踏襲で行ってきた業務を改めて，その目的と背景から見直し，スリム化を図ることが必要である。次年度においては，教員を一名増員し，校長の主導により業務改善を行う。
(評価項目3-5より) 「教職員の資質向上」	(今年度は，次年度に向けた準備の年とする。) ・資質向上を図るためには，目指すべき職員像とそこに達するための方法を示すことに併せて，資質を向上するための時間とこころのゆとりを確保することが必要である。そのために，今年度においては業務の効率化を優先して実施する。

(3)保護者に関すること

課題	具体的な取り組み方法
なし	